

(別紙5)

整理番号 2022P-003  
補助事業名 2022年度 東京五輪・パラリンピック大会後のレガシーや実施予定施設等を活用した地域振興やスポーツ振興に資する事業 補助事業  
補助事業者名 (一財)日本サイクルスポーツセンター

## 1 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

#### ①トラック競技大会の開催

オリンピック・パラリンピック会場において、誰でも参加しやすい大会開催により競技者の底辺拡大を目指す。

#### ②MTBヤングキャンプの開催

オリンピック会場におけるキャンプの開催により、競技の底辺拡大を目指す。

### (2) 実施内容

#### ①トラック競技大会の開催

本センターの定款に規定する目的事業「サイクルスポーツ普及イベントの開催」の一環として、トラック自転車競技大会を企画したもので、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会のトラック競技が開催された「伊豆ベロドローム」において、老若男女誰でも参加できる大会を開催した。

- ・大会名 CSC トラック自転車競技大会2022 (KID 'S~マスターズ)
- ・開催日 令和4年7月16日(土)~令和4年7月17日(日)
- ・場所 伊豆ベロドローム ((一財)日本サイクルスポーツセンター内)
- ・参加者 55名



## ②MTBヤングキャン

2020東京大会のマウンテンバイク競技のコースとして利用された伊豆MTBコースをオリンピックレガシー施設として活用し、MTBヤングキャンプを開催した。

- ・キャンプ名 2022 CSCヤングMTBキャンプ
- ・開催日 令和4年12月27日(火)～令和4年12月29日(木)
- ・場所 伊豆MTBコース ((一財)日本サイクルスポーツセンター内)
- ・参加者名 10名



<https://www.csc.or.jp> (URL)

## 2 予想される事業実施効果

### ①トラック競技大会の開催

2020東京大会のトラック競技においては、実に72.2%のメダルがヨーロッパ勢の手に渡った。世界最高峰のオリンピックにおける結果の礎となっているのは、幼少から自転車を楽しめる同地域の熟成された自転車文化に他ならない。競技者層の底辺が広げれば、それだけ競技人口におけるピラミッドは高くなる。すなわち競技力向上を得られる。本事業においては、その夢の舞台となった伊豆ロードームにおいて、誰でも楽しめるトラック自転車競技大会の実現を目指すことができる。

### ②MTBヤングキャン

2020東京大会マウンテンバイク競技で使用された伊豆MTBコースは、世界でも屈指のテクニカルなコースであると評判である。人工的なロンドンやリオデジャネイロなど過去の五輪マウンテンバイクコースと違い、既存の自然を活かした素晴らしいコースであると、今回世界中にPRされた。本事業においては、そのMTBコース

(別紙5)

に於いて、特に若い世代の参加者に、マウンテンバイクの楽しさを伝える場として提供したい。同時にオリンピック会場で実施することによる「オリンピズム」の社会への浸透も図る教育的プログラムとしても価値を上げることができる。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

該当なし

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

該当なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般財団法人日本サイクルスポーツセンター

(イッパンザイダンホウジンニッポンサイクルスポーツセンター)

住 所： 〒410-2402

静岡県伊豆市大野1826番地

代 表 者： 平柳 豊 (カイチョウ ヒラヤナギ ユタカ)

担 当 部 署： 総務部 経理課 (ソウムブ ケイリカ)

担 当 者 名： 経理担当課長 土屋 博良

(ケイリタントウカチョウ ツチヤ ヒロヨシ)

電 話 番 号： 0558-79-0006

F A X： 0558-79-0908

E - m a i l： csczaimu@csc.or.jp

U R L： <https://www.csc.or.jp>